

中央線の電車の中から見るとアート作品

1月13日、阿佐谷けやきプール（杉並区阿佐谷北1-1-22）では、区内在住の若手アーティストによる作品展が行われています。この作品は、100枚ほどのTシャツに魚を模したプリントを施し、プールを横断するように展示されています。その様子は、プールの水面から、魚が元気よく飛び跳ねているように見えます。また、何と言っても、この展示が中央線の車窓から鑑賞することを想定しているのが特徴です。展示は、1月27日午前中まで行われます。

杉並区は、「文化・芸術の創造性を活かしたまちの魅力づくり」をテーマに、区民が創作した作品の展示・発表の場を確保し、気軽に文化・芸術に親しむ機会の場を充実させていくことを目指しています。

今回の「2017 光の魚 in けやきプール」も、こうした文化・芸術を通じたまちづくりの一環として開催されたもので、区内在住の小原一洋（おばらかずひろ）さんが企画しました。小原さんは、広島県出身ですが区内の美術専門学校でデザインや造形などを学び、現在は「水・人・地域」をテーマに染め物を使ったアート活動を行っています。

電車の中から見ると作品展は、会場の区立けやきプールが、冬季期間中は閉鎖となり立入禁止となってしまうことから、それならば中央線の乗客をターゲットにしようとなりました。プールは、中央線の高架のすぐ北にあり、中央線の上り電車から見下ろすとよく見える位置関係にあります。



13日、小原さんを中心に、プールを跨ぐように6本のロープが張られ、そのロープに100枚ほどのTシャツが下げられました。青と白のTシャツには、それぞれ魚がプリントされています。プールサイドからは、水面から飛び跳ねているように見えます。また、高い位置から見ると、Tシャツにプリントされた魚が水面に映り、泳いでいるようにも見える作品です。

作品の展示は、1月27日正午までで、週末はライトアップも行われます。プールは、JR阿佐ヶ谷駅と高円寺駅の間であり、阿佐ヶ谷駅から中央線の上りの電車に乗車すると、発車して間もなく左手真下に見えるはずですが、また、会社帰りの下り電車の楽しみには、阿佐ヶ谷駅南口広場にある高さ30mのツリーのイルミネーションもおすすめです。